

ことづか

## 古塔塚の ナンジャモンジャ

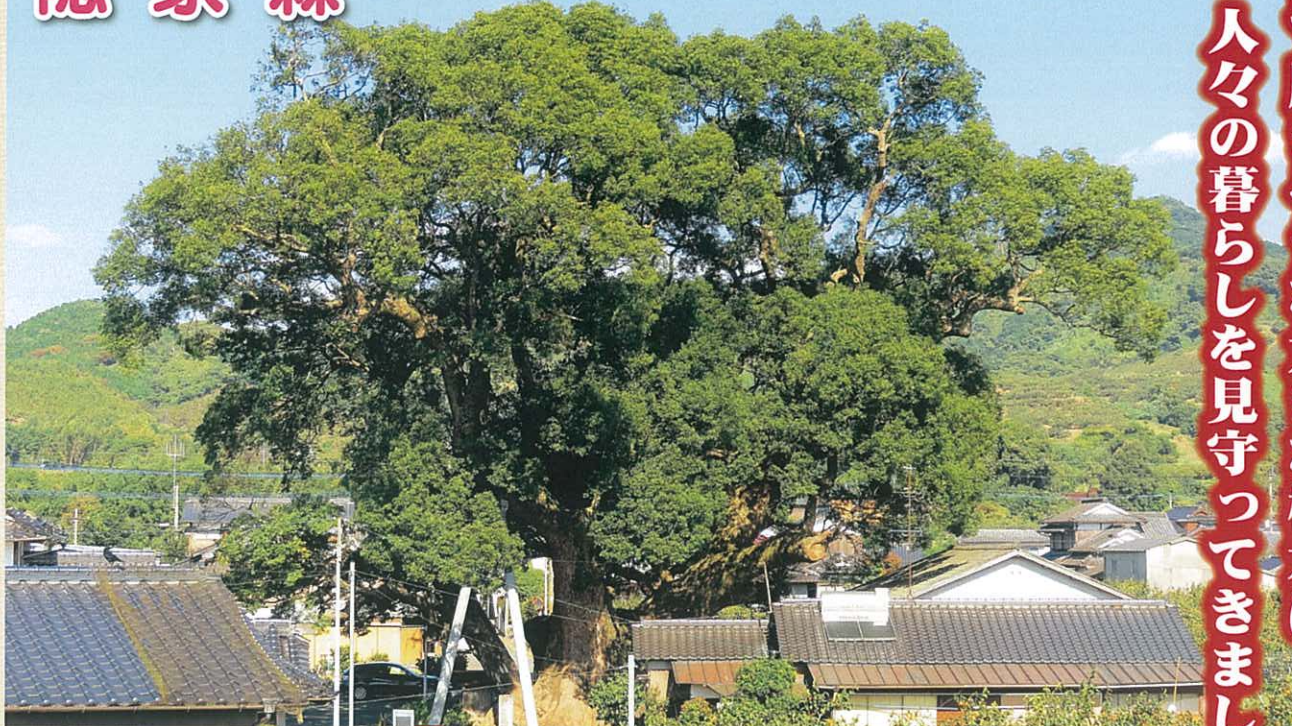
(石成・県指定天然記念物)

畑の中に小高く盛土された古塔塚の上に、1本だけ生えているタブノキの老木です。ナンジャモンジャという名前の由来は、昔この木が「何の木かわからない人々が「この木はなんじゃるか」と言ったことからきたものとされています。



かくれがのもり

## 隠家森 (山田・国指定天然記念物)



朝倉市で一番大きな木には、森の名前がついています。その名も「隠家森(かくれがのもり)」。クスノキの巨樹です。隠家森がある恵蘇宿には、かつて「朝倉の関」という関所がありました。理由があつて関所を通れない者は、森に隠れて夜を待つたという伝説から、「隠家森」という名前がついたとされています。

天まで届きそうな大きな樹木は、  
人々の暮らしを見守ってきました。

みょうけん

## 妙見の大イチイガシ

(上秋月・市指定天然記念物)

水神を祭る妙見社(白木宮)の神木です。市内に現存するものとしては最大級のものです。以前は夏に「フッポウソウ(ふくらむ)」がこの木に宿っていました。イチイガシの実(朝倉の方言で「いっちち」)は、「けいっち」と呼ばれています。



## 田代家のイヌマキ

(秋月・市指定天然記念物)

旧秋月城下町の街道沿いにあるイヌマキの大木です。中世は秋月氏、江戸時代は黒田秋月藩の盛衰と幕末・明治の動乱を見据えてきました。秋月の伝統的な町並みの中で周囲の山々を背景として立つ姿は、秋月町のシンボルと言えます。



## キンメイチク

(杷木久喜宮・国指定天然記念物)

キンメイチクはマダケの突然変異種です。幹は全体が黄金色で、節ごとに交互に緑色が残り、美しい模様となっています。江戸時代から庭園造りに使われてきました。自生地域は全国でも少なく、杷木久喜宮地区ではかつて広い範囲に自生していたようです。



### 環境保全活動紹介

#### 朝倉市に小水力発電を進める会 「手作り水車で地域づくり」

シリーズ  
第17回

杷木白木地区には3年前から水車が動いています。これは、「朝倉市に小水力発電を進める会」(代表 手嶋政春 会員20名)が、農業用水路を活用し、身近にある材料で手作りしたものです。現在動いている水車は2代目になります。

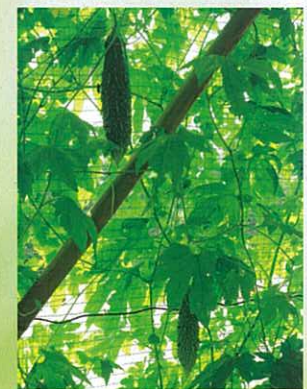
同会は、地域づくりの一環として、水車による小水力発電に取り組んでいます。これまでに小水力発電の学習会や出前講座、シンポジウムなどを開催してきました。

副代表の林清一さんは、「電気専門家もいない中、試行錯誤での水車づくりです。人が集まると知恵も集まります。今後多くの人と取り組んでいきたい。目標は水車100個。100年水車夢プロジェクトです。」と笑顔で語ってくれました。



### 植物の力で暑い夏を快適に

暑い夏を快適に過ごすために「グリーンカーテン」を育てる人が増えています。グリーンカーテンは、直射日光を和らげてくれます。また部屋の中から眺めても、緑の葉の間からこぼれる光が美しく、見た目も涼しげです。花や実をつける植物を選ぶとさらに楽しみも広がります。



5月末に開催された市民祭では、「あさくら美花美化バンク」の皆さんが、募金協力のお礼としてゴーヤの苗を配布しました。今年も市内のあち

こちで涼しげなグリーンカーテンがみられることでしょう。



毎月第2週は  
きらきら美花美化週間  
きららちゃん  
掲示週間 平成27年7月1日～平成27年10月31日まで